

パッド敷いて湿気対策

上げ下ろしできる布団に比べ、大きくて重いベッドマットレスの手入れは面倒だ。汗や湿気を吸い込んだままにしておくとカビやダニが発生しやすくなる。梅雨入り前のこの時期に、手入れについて見直したい。



ベッドマットレスの手入れ

東京・池袋の「ベッド専門店グースカ」の大内義之さんは「マットレスに直接シートをかけたず、ベッドパッドを敷

いてからシートをかけてください」と話す。

人間は一晚でコップ1杯(約200ミリ・リットル)の汗をかきといわれる。シートとの間にパッドを挟めば、マットレスが汗を直接吸い込まずに済む。「パッドをまめに洗濯すれば清潔に保てます」

日中にシートとパッドをはがし、マットレスに直接空気が当たるようにするだけでも湿気対策になる。時々、風通しの良い場所に立てかけて乾燥させるとなおよい。

ただ、重いマットレスは持ち上げるだけでも一仕事だ。ベッドクリーニングを行う

「ダスタリー東京」代表の江沼喜久雄さんは、マットレスの四隅に厚めの本や電話帳などを差し込む方法を勧める。空気の通り道を作ってやるだけでも除湿効果があるという。

同社では、マットレス本体の本格的なクリーニングを請け負っている。料金はシングルサイズ(幅約100センチ×長さ約200センチ×厚さ約20センチ)で、税込み1万9440円から。

ほこりを掃除機で吸い取った後に植物性の洗剤を表面に塗布、100度の蒸気を当てて内部を消毒する。洗浄機で

内部も水洗いし吸引機で吸い取る。消毒液をかけ乾燥して仕上げる。所要時間は2時間〜2時間半程度。

東京都練馬区の主婦、尾崎美千代さん(73)は4月下旬、家族が寝室で8年ほど使っているマットレスをクリーニングした。「風に当たったりして丁寧に使っていても、ある程度は汚れてしまう。クリーニングしたベッドは気持ちよさそう」と話していた。

マットレスは、上下や裏表を返してやると、湿気対策のほか「へたり」防止にもなる。ダニの死骸やほこりを除去するには、家庭用掃除機をかけるだけでもいい。「定期的な手入れは、マットレスを長持ちさせます」と江沼さんは話す。



①ベッドパッドはマットレスを長持ちさせる②ベッドマットレスのクリーニング。洗浄後、汚れた水を吸引する

手入れがしやすい市販のベッドマットレスも増えてきた。

高反発マットレスブランド「エアウイヴ」の近年の主力商品は洗えるタイプだ。外カバーを外し、マット部分にシャワーを流しかけて洗うことができる。シングルサイズで12万9600円(税込み)から。アイリスオーヤマの「エアリー」シリーズ(シングルサイズ税込み2万5509円〜)もシャワーで流し洗いが可能だ。

アイシン精機の寝具ブランド「アスリープ」の「ファインレポプライムマットレス」シリーズ(同15万8436円〜)は、マットレスの上面をクッション性のあるカバーで覆う構造。このカバーは家庭でも洗うことができ、清潔な状態を保ちやすいという。

洗えるタイプ登場